

THE KOBECO

MARCH No.323

1988 3月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
昭和63年3月1日印刷 通巻323号 昭和63年3月1日発行
毎月1回1日発行



南仏の風を運んで、
この春、シャコックがデビュー。



みなさまに愛されてきた、三宮本通りの「クワトロ・スタジオウネ」が、
2月19日より、「シャコック」として、新しく生まれかわりました。

「シャコック」は、陽気でアダルトなリゾートの薫り。
ほがらかな陽光と透きとおった風を、モードのプリズムに包んで、
ひとつ足はやく、バカンスの便りを贈ります。

BENIYA
CHACOK

神戸市中央区三宮町2丁目8-10 三宮本通り Tel.078(332)4858





バストの上で、演奏会を開きます。

宝石たちの新世界。

●ブローチ(ペンダント兼用)/K18・Pt/イエロー・ベリル・ピントルマリン・トルマリン・ダイヤモンド

●いろいろな特典のあるプラスワンカードの会員募集中です。

田崎真珠 ●この広告のお問い合わせは企画広報部(TEL078-302-3321)、販売企画室(TEL03-580-1688)まで

水谷昌子

ISMを着る

武蔵野音楽大学音楽学科ピアノ専攻卒業後、国際音楽芸術家協会に所属し、大阪と神戸において室内楽と現代音楽中心に演奏活動を行う。現在、後進の指導の傍ら、楽声会主催のコンサートに主に出演中。

KITANO-ISM-KAN



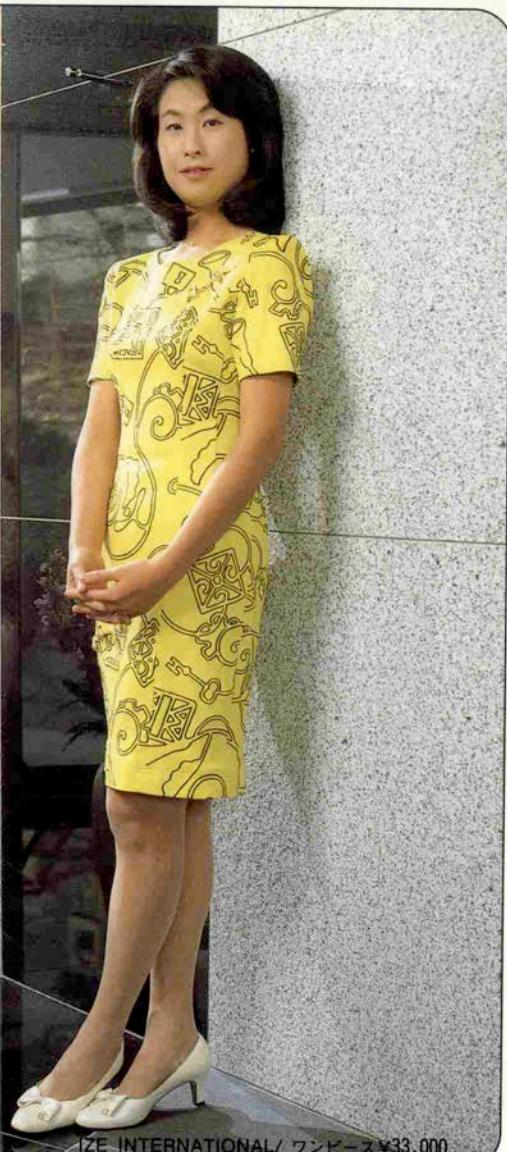
ISM PRESENTATION

〒650 神戸市中央区山本通2-66

TEL (078) 222-2818



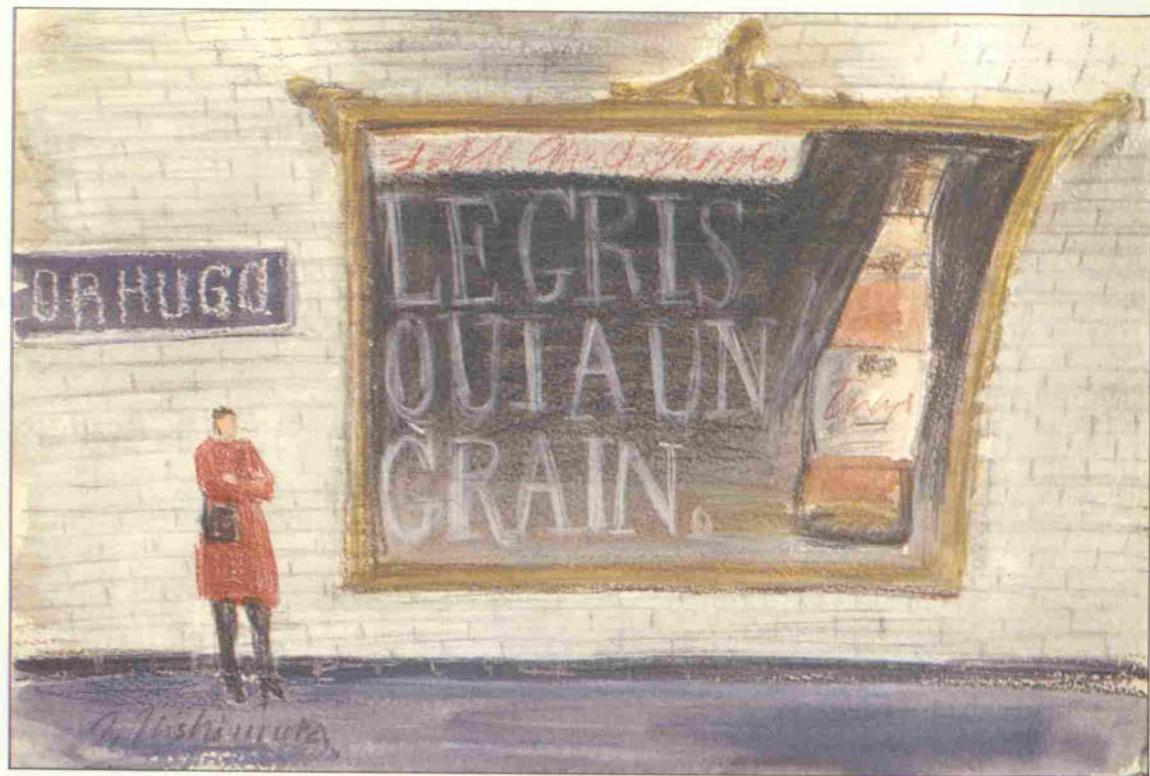
株式会社イスム
神戸市中央区布引町1-1-10
TEL (078) 222-3641



IZE INTERNATIONAL/ ワンピース¥33,000

※イスムのブラウスを抽選で3名様にプレゼントいたします。葉書に住所・氏名・年齢・職業を記名の上、神戸っ子「イスム」係。'88年3月25日まで。

Second Cover パリの街角から(3)



広告のあるホーム(1987年)

絵/西村 功

'88
世界の酒祭り

The
神戸っ子ファッショショ

ファッショ文化は神戸から
ここに新しい1ページが開かれる

月刊・神戸っ子27周年記念パーティ
第17回ブルーメール賞表彰式

神戸ファッショ大発信↓構成／藤本ハルミ

受付/17:30～
開会/18:00～20:30
4/8(金)

会場：ホテルシェレナ 2F 大ホール
TEL078-371-3333 元町6丁目
会費：一般 ¥12,000
神戸っ子倶楽部会員 ¥11,000

〈ブログラム〉

- 月刊・神戸っ子27周年記念セレモニー
- 第17回ブルーメール賞表彰式



青井 彰

〈音楽部門〉



たかとう 匠子

〈文学部門〉



東仲 一矩

〈舞台芸術部門〉



植松 奎二

〈美術部門〉



K.F.C.
代表 中西省伍
〈ファッショ部門〉

- 昭和62年度 神戸酒徒番附表彰式

東
文化
人



田辺聖子

〈横 梶〉



望月美佐

〈張出横綱〉



筒井康隆

〈張出横綱〉

西
経
済
人



田崎俊作

〈横 梶〉



下村光治

〈張出横綱〉



畠崎廣敏

- ショータイム The神戸っ子ファッショショ
- チャリティ福引大会
- ゲーム
- 酒亭PR大会
- 月刊神戸っ子サンバチーム出演 ほか

主催/月刊神戸っ子 後援/神戸百店会

お問合せ/月刊神戸っ子 〒650 神戸市中央区東町113-1大神ビル9F TEL.078-331-2246
FAX.078-331-2795

'88 SPRING COLLECTION

色が語る、服。

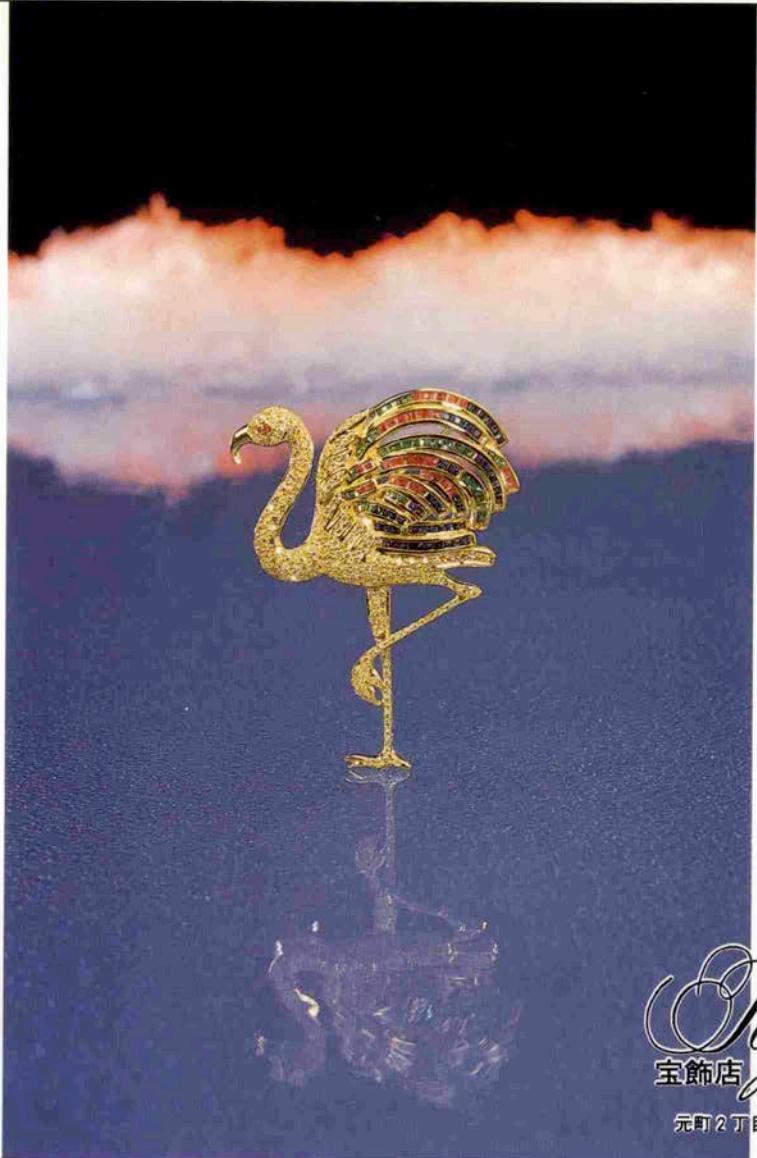
ライトカラーのスパイスが
ピリッと効いた服。

あざやかな季節への予感、
ひと足早く感じてください。



serizawa
KOBE

■本店 神戸市中央区三宮町3-1-8 TEL 078-331-1695 ■さんプラザ店 ■センター街店 ■さんちか店 ■P-4ショップ ■メンズセリザワ KOBE・OSAKA・TOKYO・KYOTO・HIMEJI



翔
び
た
つ
ト
・
キ
・
メ
・
キ

Tajima
宝飾店 タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761代表

文学部門

積年の思いを結実

まさこ
詩人 たかとう匡子

受賞の対象となつた詩集『ヨシコが燃えた』には、戦災で亡くなつた妹への作者の鎮魂の思いが込められている。「姫路の空襲で妹を亡くしてからこの体験を何度も詩に書こうと試みたんです」。最近距離であるだけに客観化できるまでに四十年が経つた。「戦争体験の風化が言われますが、私の場合、それは深化んですね」。六歳の少女の視座に立つて、はじめて作品となつた。「これで、一つ吐き出せ

た」というのが今の心境だ。詩作は、高校時代から本格的に始めた。「神戸詩話会」「大阪現代詩人会」を経て現在は「第三紀層の会」「潮流詩派の会」同人、現代詩神戸研究会会員。神戸市内の女子高校で教鞭をとるかたわら詩作を続ける。「教師は大変な仕事ですが、詩があるからやつて行けるのだと思います」。一つハードルを越えた、といえる。神戸市生まれ。須磨区在住。

49歳。



美術部門

国際アーチストの貫録が…

アーチスト

植松奎二

「わあ、もうもーわれへんと思つたのに嬉しいなあ！」デュッセルドルフからの植松奎二の声は底ぬけに明るかった。これで、4月には盛大な花見をやろうと、もう計画していますとのAir Mailが編集部にとどいて、彼の神戸的なスカット抜けた作風の原点を見る思いだつた。

赤・黄・白のとんがり帽子のような布と木の立体群は、モダンだけれど暖かい。今回の受賞は、滋賀近代美術館の9月に創った石とスレンテレス作品で、危険な関係の中に調和を保つ大作だが、神戸、デュッセルドルフ間を往復して創作する国際作家としての貫録充分。

「迄は岐阜のKギヤラリー、¹⁴迄は大阪信濃橋画廊で¹⁵迄は神戸のトアロード画廊。そしてベニス・ビエンナーレは6月¹⁶9月の出展と多忙である。40才。



舞台芸術部門

スペインの情熱を 東伸一矩

絞り込まれた体付き、射るような眼差しが見る者をハッとする。「いいですよ、スペインは。特に南部がね。大好きで、大嫌いな所です」と彼は笑う。

詩人・劇作家ガルシア・ロルカに出会ったのが学生時代、「70年頃というからその造詣は深い。『ジプシーコンサート』に魅かれてトータルで7年余りをスペインで過ごす。日本にいる危険性』を感じ、毎年必ず足を運ぶ。向こうに居て初めて

本当の自分が顯わになる。

「器用ではないのでね、新しいことを毎年は演れません。溜めなければダメなんです」自身に対する冷静な目が舞台での表現を更に深める。

「単なるフラメンコではなく、フラメンコという『形』を通して自らの舞踊を発展させて行きたい」そう語る東伸一矩の願いは、4月22日芦屋『カフェ』のリサイタルを皮切りに、今年も熱く展開する。

カメラ：松原卓也



音楽部門

叙情性豊かに

青井彰

浜松市出身。東京芸術大学ピアノ科卒業後、イーンに留学。一九八四年帰国。現在神戸市に住む。大阪音楽大学・県立西宮高校音楽科で教鞭をとっている。神戸音楽家協会会員でもある。

出身地の浜松をはじめ、全国各地でリサイタル。とくに昨年一月に催された田崎ホール「エスパス・メディア」での演奏が評価され今回受賞となつた。

「ピアノの音を聞いて育つた。ショーベルトに魅せられ、その天才的な即興曲の、永遠に続くかと思われる美しい旋律を聞くと心が安らぐと。」「叙情性を表現したい、音を美しく響かせたい」というのが、演奏に臨む姿勢であるともいう真面目な音楽家。

今年5月に予定されている宝塚ベガホールでのリサイタルの、さらなる成功を期待しよう。

カメラ・池田年夫



ファッション部門

神戸ファッションの 情報基地に K. F. C.

神戸ファッションクリエーターズ

神戸市の「ファッション都市宣言」に応えて、15年前、神戸在住のデザイナーたちが集合した。神戸ファッションクリエーターズ——略してK.F.C.。会長の中西省伍をはじめ、アバレル、デパート、学校などで活躍する10名。互いの情報を交換し、デザイナー集団として成果を納めて来た。西脇の播州織、神戸のケミカルシユーズや真珠に、新風を吹き込み、フェイクファー（人造毛皮）や合成皮革の研究にも、一早く取組む一方、年

一回ファッションショーを開いて、作品発表も欠かさず続いている。K.F.C.の名は、ファッション界において今ではすっかり全国ネットだ。

「生きること」そのものにファッション性が問われる今、15年という一つの節目を機に「K.F.C.を神戸ファッションの発信基地に」と、次のステップを目指すK.F.C.。日本中が神戸ファッションで彩られる日は、そう遠くないかも知れない。





Beautiful eye

わたしとメガネ



生活にフィットしたフレームを

小田 健義

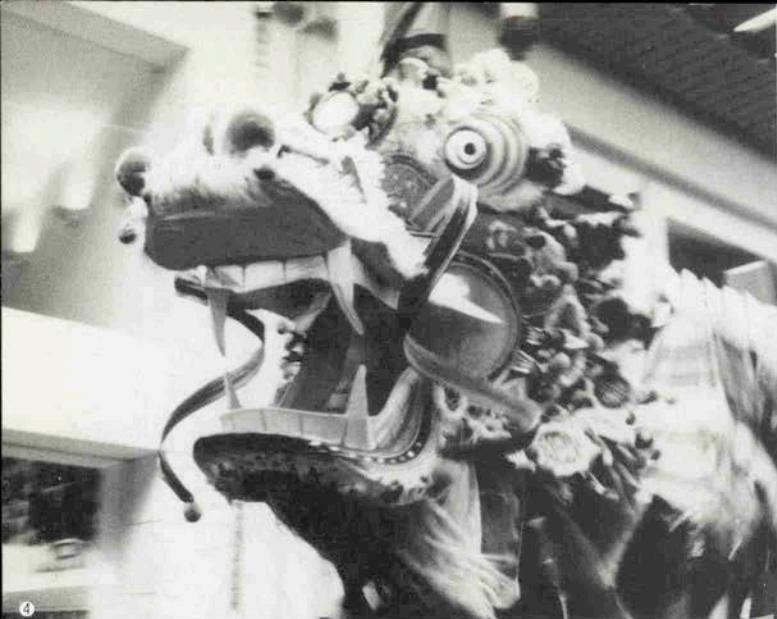
（株）イズム代表取締役社長）

ベターandディファレントという物造りの基本を追い続けて急成長したイズムの社長、小田さんはサマースポーツがお得意。

時代の軸がどんどん変化し、豊かに楽しく快適なものが求められる中で、ファッションに人一倍の興味があるといわれるだけあって、フレームも、生活の中にフィットしたナチュラルなものを選ばれるそうです。

豊かなイメージ造りのお手伝いをするのは、今日もトータルファッションに溶け込んだフレームのようです。

服部メガネ
神戸・丸前 (078)331-1123



①普段でも中国情緒あふれる南京街だがこの日はまるで中国そのもの②見物客もエキゾチック③今回は初お目見えの雌竜も登場し、雄竜との結婚式も披露。元町商店街で幸せそうに踊り狂う夫婦竜を祝福する見物人たち(?)④極彩色が鮮やかな巨大な竜の頭⑤⑥本場中国料理の出店も出店。

第2回南京街“春節祭”を開催

●コウバスナップ

昨年の第1回目の開催で話題を集め、すっかり神戸名物の一つとして有名になった南京街の第2回『春節祭』が去る18日から始まった。もともとは中国の旧正月を祝う伝統行事だが、日本では時差の関係で1日遅れのこの日が旧暦の元旦となる。開催初日は、色とりどりに彩色された全長40mに及ぶ竜の舞いを一目見ようとたくさんの見物人がつめかけ、大にぎわいの四日間となった。